

交

い

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum

かいじあむ通信

kai

第64号

2026年9月16日発行

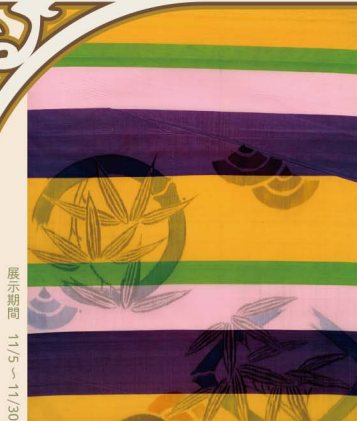
山梨県立博物館

生地見本 絵甲斐絹

明治40年度(1907~1908)購入

山梨県産業技術センター

展示期間:11/5~11/30



展示期間
11/5～11/30

生地見本 絵甲斐絹
明治40年度(1907～1908)購入
山梨県産業技術センター

なんと
という色づかい！

外国の布みたい



展示期間
10/10～11/3

生地見本 格子甲斐絹
明治39年度(1906～1907)購入
山梨県産業技術センター



将軍様が眠りに ついた甲斐の絹

江戸幕府十二代将軍徳川家慶 郡内嶋敷布団
嘉永6年(1853) ミュージアム都留



甲斐国土産の定番「郡内絹」

郡内本場純粋織絹綿本控
天保6年(1835) 個人 写真提供：都留市教育委員会

山梨県立博物館秋期企画展 甲斐絹物語 2026.10/10～11/30



かつて、「私らしさ」にはウラがあった。

表地で「社会(共同体)」と調和し、甲斐絹の裏に「私(個人)」を託す—
近代人の揺れ動く心は、羽織の内側に美しくモダンな世界を創り出した。

時は移り、人々の関心は裏地から表地へと移る。

甲斐絹が育んだ個性は、表地へと解き放たれた。

これは、密やかに、しかし情熱的にはじまった「私らしさ」の物語。



展示期間：11/14～11/30

カイキと ホルムズ海峡の深い縁？

文政九年 戌九月 紅毛持渡反物切本帳
文政9年(1826) 東京国立博物館
Image:TNM Image Archives



展示期間：10/10～11/3

これは何だ？

生地見本 絵甲斐絹
大正2年度(1913～1914)購入
山梨県産業技術センター



生地見本 絵甲斐絹
大正5年度(1916～1917)購入
山梨県産業技術センター

展示期間：11/5～11/30

日本の洋傘は 山梨が支えてきた

明治時代頃の洋傘
明治時代後期～大正時代(1895～1926) 株式会社 小宮商店



ちようちよ？
リボン？
ワラビ!?

学芸員 おすすめの一品

収蔵資料の見どころを
ご紹介します



この期間に会える！

2026年
8月26日～10月31日
常設展「信仰の足跡」コーナー



中央には撞座（撥で打つ部分）が
蓮の花の模様で整えられ、その左
右には、2羽の孔雀が向き合う姿
であらわされています。

毒蛇を食べる聖なる鳥

孔雀は美しくおめでたい鳥として、絵に描かれたり、工芸品にあしらわれるなど、美術作品にしばしば登場します。特に仏教では、毒蛇を食べる聖なる鳥として、人々の苦難や災厄を除くなどの功德があると考えられました。



どんな音が鳴る？

磬（^{けい} 本国寺蔵、山梨県指定文化財）
南北朝時代（14世紀）

磬とは、お寺で法会を行う際、お坊さんの右側に置かれ、作法の区切りを伝える合図をするためなどに打ち鳴らす道具です。上側には、架台に吊るすための穴が左右に作り出されています。

小栗忠順の従者による渡米の記録 「花旗航海日誌」写本

（福島義言著、当館蔵）元治2年（1865）

2027年の大河ドラマの主演、小栗忠順。彼は34歳のとき、幕府の命により使節団に参加し、太平洋を横断してアメリカに渡り、そのまま東へ世界を一周して帰国しました。「花旗航海日誌」は、忠順に仕えてともに渡航した福島義言による記録です。

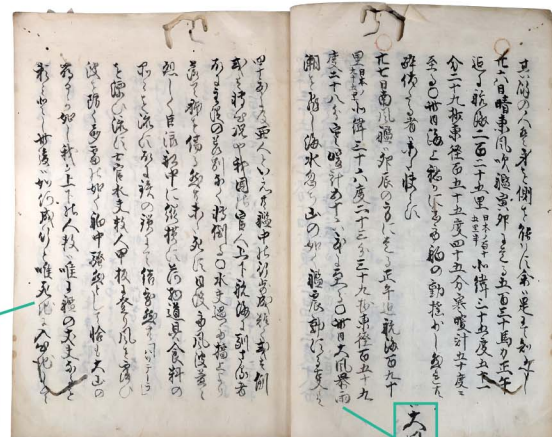
「花旗」とは もとはアメリカ合衆国の国旗・星条旗を指す中国語で、幕末の日本ではアメリカ合衆国のことを花旗国、アメリカ人のことを花旗人と呼ぶことがありました。

この期間に会える！

2027年 1月2日～2月15日
常設展「転換期に向き合う」コーナー



航海の最中、暴風雨に襲われた一行。その様子は次のように記されています。



「大風暴雨、潮を飛ばし、
海水たちまち山の如く、
艦の震動することは四十度に及び」

「この後はいかが成り行くかと、
ただ死地に入る心地して、
運を天に任せ伏するのみなり」

義言は死を覚悟するほどの揺れを経験したあと、こんな暴風雨を乗り越えて諸外国と交易をし、自分の国を豊かにしようとするアメリカ人に感心するとともに、油断がならない相手である、と書き残しています。

小栗忠順 (1827-1868)

万延元年（1860）の遣米使節に参加し、帰国後に外国奉行に就任しました。文久2年（1862）には勘定奉行に転任し、名乗りを上野介と改め、幕府の軍事・財政の再建をはかろうとしました。慶応4年（明治元、1868）に戊辰戦争が始まると、徹底抗戦を主張したため徳川慶喜に疎まれ、所領のある上野国（群馬県）に戻ります。その後、上野国を制圧した新政府軍に捕えられ、処刑されました（享年42歳）。

貴重な記録

「花旗航海日誌」は、経済学者の野村兼太郎が所蔵していた写本をもとに活字化されて広く知られていますが、当館で所蔵しているのはそれとは別の写本です。現在のところ、「花旗航海日誌」はこの2つしか確認されていません。同じく遣米使節に随行した市川大門村の医者・廣瀬保庵の『環海航路日記』とあわせて、遣米使節の実像を示す貴重な記録です。

休館日や日程は変更になる場合があります。必ず当館ホームページなどでご確認のうえ、ご来館ください。

かいじあむトピックス

山梨県立博物館の旬な
話題をお届けします



博学連携の取り組み

山梨県立博物館では、開館以来、学校と博物館が連携して学びを深める「博学連携」を活動の柱の一つとして取り組んでいます。展示室を「第二の教室」と位置づけ、学校教育では得られない実物資料を観察する力を育てています。それだけでなく、新たなワークシートや教材の開発を進めています。

また、出前授業などを通じて、子どもたちが地域の歴史や文化を身近に感じながら学べる機会としています。ほかにも、中学校・高等学校の生徒を対象としたインターンシップの受け入れや、授業実践のための教員に向けた講義など多様な取り組みを行っています。今後も学校と手を取り合い、様々な形での「博学連携」を行っていきます。



教員向け講義の様子



出前授業「昔の道具」

利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)*9/24は休館。9/23は開館。

館内設備工事のため、常設展の観覧休止と、臨時休館をおこないます。

常設展観覧休止：2026年11月1日～11月30日

※常設展観覧休止期間中は、企画展「甲斐絹物語」のみご覧いただけます。

臨時休館：2026年12月1日～2027年1月1日

観覧料 常設展：一般520円、大学生220円

※高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

※企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

※割引料金等につきましてはホームページなどで確認、またはお問い合わせください。

かいじあむ通信「交い」第64号

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

発行日：2026年9月16日

Tel: 055-261-2631 Fax: 055-261-2632

編集・発行：山梨県立博物館

E-mail: kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

URL: <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交ひ(かい)」であるという説があります。
山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。

山梨県立博物館
ホームページ

